

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和6年7月27日

#健康管理士 村山 章

読売新聞の日曜日版に「あすへの考」があります。7月14日に興味深い記事が掲載されていました。「ロシアによるウクライナ侵攻など、現在も世界中では武力衝突が相次ぐ。紛争や戦争はなぜ始まり、どうしたら回避することが出来るのか——。誰もが抱く素朴な疑問に、真正面から答えようとする学問が、国際政治学だ」。このような一文で始まる田湖淳（たごあつし）・早稲田大学教授が取り組む内容は「国際政治への科学的なアプローチ」です。

その「科学的なアプローチ」について田湖教授は「高い説得性に加え、建設的な議論が可能になることです。透明性が高く、妥当な方法で行われたデータ分析の結果が議論の土台となっているため、納得できない人が反論し、分析を改善していくことができるからです」と記し、文系における科学的手法のメリットを明快に伝えていました。

今後もデータを地道に積み上げていけば、例えば各国政府や国連の実務家が、科学的な根拠に基づいて決断を下す際の手助けになるはずで、その先に「戦争を予測して回避できる時代」が来ると私は信じます。田湖教授は東京大教養学部卒で神戸大教授を経て18年4月から早稲田大教授。客観的に対処できる頭脳明晰な人なのでしょうね。

また、7月26日の読売新聞一面には「PAC3 対米輸出へ 備蓄下支え共同生産を強化」という見出しがありました。日米両政府は、弾道ミサイルを迎撃する地对空誘導弾「PAC3」を日本から米国に輸出するため、日本での生産体制を強化する方針を固めたようです。ロシアの侵略を受けるウクライナに軍事支援を続ける米国は、装備品の備蓄不足が課題となっており、同盟国である日本が下支えする狙いがあるらしいのです。しかし、これでは日本が戦争に加担する道につながりますし、見すごせません。戦争を早く止めさせる方法はないのでしょうか。長引けば長引くほどウクライナもロシアも、そして中東でも戦死する人が増え続けます。